

(別紙 10)

山形県におけるクマ類出没防止対策の実施に係る計画/評価報告
(出没防止対策事業) ③

1 事業実施地域周辺の現状の出没・被害状況、出没防止対策の実施状況及び課題等

西蔵王地区では、クマの目撃件数が年 1～2 件程度確認されており、人身被害の発生が懸念されたため、平成 29 年度に出没防止対策として、西蔵王公園内の一部区域に緩衝帯の整備を行った。

緩衝帯整備以降、クマの目撃件数は平成 30 年、令和 3 年にそれぞれ 1 件ずつの計 2 件のみとなり、出没防止対策として一定の効果が確認出来たことから、緩衝帯整備区域を拡大し、人身被害の防止を図りたい。

2 出没防止対策の具体的な内容

実施時期	令和 7 年 4 月～令和 7 年 12 月
場所	西蔵王公園内（山形市大字岩波～上桜田地内）
目的・目標	クマによる人身被害の防止
内容	緩衝帯整備
方法	立木伐採及び集積
評価方法	クマによる人身被害の有無
事業費とその算出方法	R 7 年度：9, 192, 700 円
備考	

注 1：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。出没防止対策が複数ある場合は、対策の種類毎に各項目を記載すること。

注 2：実施主体が市町村の場合、各市町村の実施する具体的な内容を記述すること。

3 実施した出没防止対策の評価（事業終了後の評価報告時のみ）

緩衝帯整備以降、クマの目撃件数は減少し、クマ出没警報が発令された令和 7 年度においても目撃件数は 1 件のみと出没防止対策として一定の効果が確認出来た。

このことから、次年度以降に緩衝帯整備区域を拡大し、人身被害の防止を図りたい。

注 1：当初予定されていたとおり事業が適切に実施されたか記載すること。

注 2：事業実施地域ごとに、事業実施前後の被害指標（出没件数、被害件数、被害感等）を比較し、事業実施の効果が事業実施地域に現れているか評価すること（定量的な指標が難しければ、客観性を確保した定性的な指標を使用する。）。なお、事業効果の比較は同じ季節に行うことが望ましく、当該年度内での事業実施後の効果の確認が難しい場合は、次年度の実施とする旨記載すること。

注 3：注 1 による効果検証を踏まえ、事業の設計（事業の質や内容）の妥当性や、事業の実施方法の適切性を評価し、課題と改善の方向性を記載すること。

4 その他

--

注1：出没防止対策の実施に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。